

立ち読み版

RPAが中小企業にもたらす経営改革

中小企業診断士・コンサルタントはユーザーとのコワーキング



Interview

大角 暢之さん

一般社団法人日本RPA協会代表理事
RPAテクノロジーズ株式会社代表取締役社長

おおすみ のぶゆき：一般社団法人日本RPA協会代表理事／RPAテクノロジーズ株式会社代表取締役社長。1970年、広島県出身。早稲田大学を卒業後、インナーセンコンサルティング株式会社（現アクセンチュア株式会社）勤務。2000年にオープンアソシエイツ株式会社を設立し、取締役に就任。2008年より同社でビスロ事業部を発足し、「BizRobot（ビスロボ）」の提供を開始する。2013年、ビスロボジャパン株式会社（現RPAテクノロジーズ株式会社）を設立し、代表取締役社長に就任。2016年7月、一般社団法人日本RPA協会を設立し、代表理事を務めている。著書『RPA革命の衝撃』（佐々木俊尚監修、東洋経済新報社）。

【写真・文】片平 隆雄 中小企業診断士 【写真】野村 雄治

Interview >>> Nobuyuki Osumi

— The prologue

「RPA」という言葉をご存じだろうか。昨今、大企業だけでなく、中小企業においても導入及び導入の検討が急速に進んでいる。今、最も注目すべきキーワードの1つである。

RPAとは、「Robotic Process Automation」の略で、ロボットによる業務自動化の取り組みを表す。主にバックオフィスにおけるホワイトカラー業務の代行を担うものである。

ロボットというと、産業用の機械を思い浮かべるかもしれない。だが、RPAはソフトウェアであり、「デジタルレイバー（Digital Labor）」、「仮想的労働者」とも呼ばれている。わかりやすくいえば、Excelのマクロのように、人間が行う業務の処理手順を記録し、自動的に処理するツールである。

今、なぜRPAがブームなのか。導入に際してのポイントはどこにあるのか。そして、中小企業診断士、コンサルタントに求められる役割とは——。日本におけるRPAの先駆者である、RPAテクノロジーズ株式会社の大角暢之社長に伺った。



企業がRPA導入に取り組むわけ

—昨今のRPAブームについて、どう感じていますか。

非常に驚いています。RPAはIT技術だと考えている方が多いのですが、実はITではないことがポイントです。

RPAとは昔からあった技術、枯れた技術であ

り、要はマクロと同じ記録ツールなのです。ブームになる数年前には、「単なるマクロじゃないか？」と言われたことも多かったのですが、技術的にはその通りです。いわゆるIT（情報システム）が「作業者のサポート」をするのに対し、RPAは「作業者そのもの」である点が異なります。

そのため、私はRPAはIT技術ではなく、HR（Human Resources）技術だと考えています。

—ブームになっている背景には何があるのでしょうか。

3つのポイントが挙げられると考えています。

続きは雑誌で